

第2回今帰仁村人口ビジョン・総合戦略策定委員会 議事録

日 時	平成 27 年 12 月 2 日 (水) 15:00~17:15																																																				
場 所	今帰仁村役場第一会議室																																																				
出席者	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>団体名</th> <th>策定委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師</td> <td>島田勝也</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公立大学法人名城大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授</td> <td>大谷健太郎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>今帰仁村商工会 経営指導員</td> <td>田場誠</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>今帰仁村観光協会 事務局長</td> <td>又吉演</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>今帰仁村農業委員会</td> <td>米須清和</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)</td> <td>真栄田久</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>今帰仁村女性の会</td> <td>内間好美</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>今帰仁村青年会</td> <td>上間哲朗</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>今帰仁村区長会</td> <td>田港朝茂</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>今帰仁村議会 議員</td> <td>與那勝治</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>今帰仁村役場 副村長</td> <td>大城清紀</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>今帰仁村教育委員会 教育長</td> <td>新城敦</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>今帰仁村役場 幼保連携推進室長</td> <td>宮里晃</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>今帰仁村役場 福祉保健課長</td> <td>仲村美奈子</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>今帰仁村役場 経済課長</td> <td>島袋輝也</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)</td> <td>西泊正喜</td> </tr> </tbody> </table>			団体名	策定委員	1	沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師	島田勝也	2	公立大学法人名城大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授	大谷健太郎	3	今帰仁村商工会 経営指導員	田場誠	4	今帰仁村観光協会 事務局長	又吉演	5	今帰仁村農業委員会	米須清和	6	村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)	真栄田久	7	今帰仁村女性の会	内間好美	8	今帰仁村青年会	上間哲朗	9	今帰仁村区長会	田港朝茂	10	今帰仁村議会 議員	與那勝治	11	今帰仁村役場 副村長	大城清紀	12	今帰仁村教育委員会 教育長	新城敦	13	今帰仁村役場 幼保連携推進室長	宮里晃	14	今帰仁村役場 福祉保健課長	仲村美奈子	15	今帰仁村役場 経済課長	島袋輝也	16	琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)	西泊正喜
	団体名	策定委員																																																			
1	沖縄大学 地域研究所 特別研究員 法経学部 非常勤講師	島田勝也																																																			
2	公立大学法人名城大学 国際文化研究科 国際学群 観光産業教育研究学系 上級准教授	大谷健太郎																																																			
3	今帰仁村商工会 経営指導員	田場誠																																																			
4	今帰仁村観光協会 事務局長	又吉演																																																			
5	今帰仁村農業委員会	米須清和																																																			
6	村出身産業界 (現今帰仁郷友会会長)	真栄田久																																																			
7	今帰仁村女性の会	内間好美																																																			
8	今帰仁村青年会	上間哲朗																																																			
9	今帰仁村区長会	田港朝茂																																																			
10	今帰仁村議会 議員	與那勝治																																																			
11	今帰仁村役場 副村長	大城清紀																																																			
12	今帰仁村教育委員会 教育長	新城敦																																																			
13	今帰仁村役場 幼保連携推進室長	宮里晃																																																			
14	今帰仁村役場 福祉保健課長	仲村美奈子																																																			
15	今帰仁村役場 経済課長	島袋輝也																																																			
16	琉球銀行今帰仁出張所 所長 (オブザーバー)	西泊正喜																																																			

1.開会

2.委員長挨拶

3.今帰仁村の現状（資料追加）の説明【資料2】

事務局より資料説明

4.今帰仁村人口ビジョン・総合戦略案の説明【資料3】

事務局より資料説明

5.地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）先駆的事業分（タイプI）

の交付対象事業「大学生アンバサダーを活用した今帰仁村観光開発・移住促進事業」紹介

村観光協会より説明

6.議事

委員長	・ 資料2に関して、何か質問等あれば伺いたい。
委員	・ 空き家の状況について、現在135軒とある。空き家といえば、例えば、古民家に住んでみたいという要望がある。常駐するのではなく、月に何時間かのんびり過ごしたい。そこを借り切って、いつでも行きたいときに行き、住めるようにするのは、古民家という捉え方でよいか。
委員長	・ そのようなニーズに応えられる軒数があるだろうか。
事務局	・ 古民家など、空いている状態をすべて含めた数である。
委員	・ 空き家の活用には大きく二つあり、一つは賃貸住宅、もう一つは宿泊施設として貸す。賃貸に関しては、トートナーの問題があり、ほぼ不可能であろう。対して、宿泊施設としての活用は可能性があるのではないか。例えば、観光協会のような公的な機関が、空き家の宿泊版のような形で活用すれば、貸すという方もいるかもしれないという話がある。
委員長	・ 現在、135軒、その中の10%か、割合的にはどれぐらいになるか。
委員	・ 10軒あるかないかであろう。 ・ 今回、1月1日から新しく法律が改正され、空き家の場合、固定資産税が6倍になる。この金額が出たときに、もしかすると手放すという方がでてくるかもしれない。
委員長	・ 手放すまではいなくても、所有したまま一時的に宿泊業のような使い方ができるであろう。現在、論議になっており、法が確立され、来年、再来年には結論がでるであろう。
委員	・ 県内の動きはあまり把握できていないが、民間であれば、かりゆしのホテルは宿泊業であり、免許も資格もあるので、そこが買い取った物件であれば、きちんと法律に基づいて提供できるのではないか。それが可能であれば強力なビジネスになると思う。
事務局	・ 人口ビジョンの説明
委員長	・ 事務局では、施策を行っていけば、可能と考えた推計が人口9,457人であるが、役場が独自に持っている総合計画上の目標1万人はどうか。役場内で議論をしてきたと思うが、そのときの意見はどうであったか。
事務局	・ 沖縄県北部では人口が増えるのは、名護市、恩納村、宜野座村、金武町。それ以外は減少する。その中で今帰仁村の総合計画、目標を掲げる際には正直、現状維持という話があった。今回人口ビジョンで現状を認識したうえで検討した結果を提案している。
委員長	・ つまり、グラフでいうと、赤いグラフのその次の青いグラフが村として

	のコンセンサスになるのではないかという認識か。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>その中でも、各年齢5人ずつ毎年増やすというのはそう簡単にはいかない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>それは、現状維持というグラフにおいても勇気が出ないということか。それとも総合計画の目標値である1万人に対してのことか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画の目標値に対してである。</li> <li>5歳階級別純移動数では、15歳から24歳までは転出超過だが、その後は転入が多いという状況がわかり、少しだけ明るい兆しではあるが、何がなんでも5人増やすというのは無謀であろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>国勢調査では、現在9,257人、これから精査していくが、推計では少なくとも9,300人。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の人口ビジョンの推計では、名護市は人口が増えると予想しているが、その理由は何か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く場、雇用が増えている。IT関係、県内だけではなく、県外からも企業が進出している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事、雇用の計画を持っている点が大いなのかもしれない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画は、村にとって大事なものである。しかし、総合計画は今回の総合戦略のように毎回精査していくものではなかった。1万人という歯切れのいい数字を皆で目標に掲げたはずであり、簡単に変えるわけにはいかない。これから議論し、どういうビジョン、将来にするかを考えたい。現状維持を目指していくのか、人口が減っても幸せ度という色々な議論があってもいい。国は維持してくれという注文ではある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔は、1世帯の子どもの数が7、8名と多いが、現代は1、2人と少ない状況。増やすのはなかなか難しいと思う。</li> <li>仕事がないと来られないが、まず、住む場所が少ない。転入の問い合わせがあるが、住む場所がないので行きたいけど行けないという現状がある。仕事よりも先に、住む場所を先程の貸家のように工夫すればいいのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>先にこのような目標戦略があれば、今のような課題は手を打てる。仕事を作る、それにあった住宅環境をも考え、教育の環境整備なども考える。先にどの辺を戦略として持つか入口の所だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口ビジョンの数はあまり大きな意味はないのではないか。その市町村に合わせていいのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実の数字を見せられているので、その代わりに、実行できるかどうかである。KPIという考え方で、計画に沿ったものを提出することになっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度、村営住宅を計画しており、住む場所が増える予定。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局の案では、議論の末、現状維持に近い状況に至っているが、委員の皆さんの意見はどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>1万人はあまり重要視していない。一番下の6,295人でも正直のところいいのではと思う。最も重要なのは、年齢比率ではないか。人口が低くても、若い人がある程度いれば、高齢者を支えることができる。仮に1万人になったとしても高齢率が増えてしまうと、結果としては、厳しくなってしまう。だから、この年齢比率を最重要項目にしてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>2060年の6,295人という数は、超高齢化社会になった結果であり、実は、お年寄りの数も減っていくという最悪のパターンである。一時的にお年寄りが増えるが、生産年齢が減り、子どもの数も減り、最後には、</li> </ul>

	<p>お年寄りの数も減るというシミュレーションである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今帰仁村の合計特殊出生率は、2.1 が 10 年ぐらい続くであろう。その後、人口を維持するためには、県の目標 2.5 に持っていくと、上がっていくという結果である。</li> <li>・ 若い世代に、子どもは何人ほしいかというアンケートをとった結果は 3.1、3 人ぐらいほしいというのが現状にある。参考までに。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どれだけの戦略を持っているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮定として、5 年間で 75 人ずつの増加になる。まずは、世代に関係なく、それから、若い世代、あるいは高齢者も必要だと想定している。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光協会としては、そこまでの具体化は考えているか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20 代の若い世代、女性の移住計画を想定している。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合戦略の説明</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この戦略策定の説明に関して、何か質問等あれば何う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回もコメントしたが、所々に「基幹産業である農業を」と出てくるが、20 年前はわからないが、現在、農業が基幹産業がというのはどうか。</li> <li>・ 農業を軽視すべきではない、農業を大事にすべきだと思っているが、「基幹産業」という言葉を使うときに、釈然としない思いが、観光を担っている者としてはある。イメージだけで「基幹産業は農業」としてしまうのは、少し問題があるのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3次産業を占める従業者数をもとに判断していると思われるが、実際、農業者数は少ないが、今帰仁村全体の資源等も含めて基幹産業とするのはどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基幹産業たる農業の生産高がどうなっているのか数字で示せるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今帰仁村はやはり農業を主体とした産業、そこに観光と農業がマッチしたやり方にするものを観光の方で考えたい。そうすることにより、農家、売上の向上にもつながり、若い人たち、後継者が育ち、結婚し、子どもが生まれ、人口が増えるという方法もあると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業は大事であり、観光協会としても推進していきたいと思っているが、これだけホテルや宿泊施設、飲食店があり、従業員数が増え、観光関連の企業等がある中で、まだ圧倒的に農業の方が中心ということが多いのであれば私の認識不足だが、本当にそうであるか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ このことは、日本中で議論されている。6 次産業という言葉が出てきて、農業が見直されてきている。1 次産業か 2 次産業か 3 次産業かではない状況、ようやく複合的に見られる状況になった。議論を深めていきたい。</li> <li>・ 又吉さんの意味は、この産業だと断定的に決め付けることよって他の産業が低く見られるという状況が起きていないかということか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コストパフォーマンス的な部分でいうと、農業にもものすごく予算がついている。それだけの差があるか少し疑問である。</li> <li>・ これからは、観光があるから農業が成り立つという転換期にそろそろきているのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ぬーんねんしが今帰仁村」は、今帰仁村は何もないではなく、何でもある。その言葉には、少し抵抗がある。人口が 9,500 人と 20 年間維持しているのは、今帰仁のいいところがあるからではないか。それをもう一度再認識してはどうか。今帰仁には何でもあるが、それを活かさきれていない。</li> <li>・ 外部からの交流とあるが、地域内の活性化が大切である。私は、区長をやっているが、地域の人を別にした話に聞こえてしまう。もう少し、身</li> </ul>

	近な地域での対策ができればいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、大学生アンバサダーについての説明を又吉さんをお願いする。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「今帰仁村 大学生アンバサダーを活用した今帰仁村観光開発移住促進事業」概要は、首都圏に住む 20 代の女子大学生 19 名を各字に大学生アンバサダーとして任命し、30 日間村に滞在、村民との対話、交流等を通じて、女子学生の視点による観光、産品、仕事などのアイデアを今帰仁村観光移住促進提言書（仮）として取りまとめる。また、首都圏においてアンバサダーが中心となり今帰仁村の PR イベント、産品の紹介、インターネット SNS を活用した情報発信及び来村者ネットワーク、民泊の同窓会を企画運営する。</li> <li>• 各字に担当を 1 人立て、歴史、文化、観光、農業様々な掘り起こしをし、データベース化し、情報を発信していく。彼らは Facebook の友達 が 300 人以上いる方を選んでおり、情報発信力が高い。一度つながりができると継続的に事業後も今帰仁の情報を発信していく大使であるので、その活躍により、現在、今帰仁村に不足している 20 代の女性の視点を盛り込むことができる。</li> <li>• 今年度 3 月まで実施。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これにより、今帰仁のブランドが上がるというのは資産になる。</li> <li>• 「ぬーんねんしが今帰仁村」は、何もないわけではなく、先程も言われたように、人口が維持できているのはなぜかという、やはり何もなくても、ポテンシャルがそれだけあるということではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、これからビジョンづくりに入っていきたい。事務局との共有も含め、それぞれの立場から意見を頂きたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 村の公民館が活用されていない。公共の施設として、本当にコミュニティの場になっているのか。お年寄りのコミュニティの場は病院にある気がする。子ども会が集まっている様子もみえない。少年野球が活発ではあるが、それしかやっていない。地域のことを何か皆でやろうとするときに、あの家はいて、あの家はいないということもある。それが全部つながってくるのではないかと思う。名護市や沖縄市では、区長さんの年齢が若い方だと 30 代からいる。Facebook などを見ると、各字レベルでお盆ではないお祭りをどんどん取り入れ、活用しているのがよくわかる。そのような字は自治体も比較的元気である。そうすると、戦略の中にある基本目標 4「地域と地域を連携する」ということにあてていけるのではないかと思う。意外とネタは多く眠っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域からあがってくるという仕掛けをしなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公民館は、福祉の事業においても、歩いていける範囲にあり、地域の公民館を福祉の拠点にする。高齢者も多いので、地域の家庭の主婦に介護ヘルパーなどを取って頂き、公民館を利用するなど。</li> <li>• 農業と観光、6 次産業の視点から、経済課でも 6 次産業をどのように推進するかが課題である。観光と農政の担当者間で一番おいしい立場を今後、整理していく必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公民館を拠点にするということは、地域力を高めるという意味でも、福祉分野の高齢者、また障がい者の支援においても地域力が村の大きな力になってほしい。</li> <li>• マイナス要因にある「地域間競争の激化」とはどのような意味か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の中をみているのではなく、本部など各周辺との関係になる。観光</li> </ul>

	<p>の面でも総合戦略の人口でもそうである。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各公民館の区長さんの力を借りて字の活気という話しをされていたが、この字の活気が、この村に住みたいという外からの転入につながり、また、今いるメンバーの流出も防げる。やはり地域というのがキーワードになってくるのではないか。</li> <li>女性の会の内間会長がおっしゃっていたが、現在、母子家庭が多くその支援も問われるところではあるが、核家族ではなく、何世代も住んでいる今帰仁村の良さも打ち出していくことも大切だと感じる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度、申し上げるが、地域にどのように起爆するかが問題である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客と関連すると思うのだが、国頭辺りでは、スポーツコンベンションによる地域活性化が行われている。沖縄市もそうだが、スポーツ施設、環境が整っている。オリンピックに出場した高橋尚子さんが「ワルミ大橋、古宇利大橋はマラソンの練習にはすごく最適だ」と新聞で読んだことがある。そういうことを考えると確かに、今帰仁村にはスポーツ施設はないが、例えば、冬場、駅伝チームを誘致し合宿するなど、最近では、あいあいファームという宿泊施設ができたのでそれが可能になるのではないか。中南部では高校野球の誘致などあるが、ここでは、スポーツ陸上関連の誘致ができるのではないか。</li> <li>最近、今帰仁村越地で平良新助さんの銅像が建立、ひやみかち節を作詞した方、彼は当山久三と共に沖縄からハワイ移民の立役者である。来年は世界のウチナーンチュ大会が開催される。アメリカから来られる方々は、移民で行かれた方々の子孫が大半だと思うが、その方々に案内して広めていくことが、村内や沖縄県での銅像巡り、歌碑めぐりにまたつながっていくのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>久米島に行けば、来年の世界のウチナーンチュ大会は是非、久米島に引っ張りたいと意気込んでいる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今帰仁村の強みとして、地域型一貫教育を目指して進めている。例えば、県立高校の北山高校には村外また県外からも集まる。人材育成、また、世界遺産があり、歴史を勉強しながら観光にも結びつけていきたい。国際交流として東ティモールとの交流を行っている。</li> <li>基本目標3にある「出会いの創出」に関しては、教育委員会の社会教育が現在、進めている。なぜ教育委員会なのかというと、見ず知らずの人達が集まるので、安心して応募ができる。その他にも子育て支援、学習支援を進めている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>北山高等学校が村にあるというのは資産である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>先程、公民館の話がでたが、やはりまだ活用されていないのが実情である。その理由は、中央公民館と地域の公民館が連動していないからである。都市地区の公民館はすべて公立の公民館である。市町村は区で運営している。内容が違ってくる。今後は、公立公民館とつながる公民館、各課が行政を進める上で、公民館を中心にした活動、人との交流も含め、行うことができれば素晴らしい。</li> <li>担当する部門、担当する部署、担い手はどこなのかなど、誰が何をどうするという具体的な活動に結びつける内容にして頂きたい。それができれば、今回の観光大使のように、公民館に大使を連れて来ても、誰が受け入れ、誰が何をどうするかはまだこれからで決まっていないという状況にならず、全体をまとめて頂ければ取り組みやすい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぬーんねんしが今帰仁村」には、その裏には実は、何でもあるという</li> </ul>

	<p>意味が込められているという感じを他の人から受けているので、悪くはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今帰仁村は交通の利便性が悪い。各字はバスが 505 号線 1 本のみ、1 時間に 1 本あるかないかが現状である。そこを巡回バスで回るなどを今後考え、住んでいる人が本当に幸せを感じるようにしていければよい。</li> <li>・ 若い人たちには、安心して子育てができるよう、子育て、教育の費用関係については無料で提供できるシステムをつくっていければいいのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口ビジョン・総合戦略の策定に向け様々な取り組みを行う中で、仕事をしたいが、子ども預ける場所がなく、今帰仁だけではなく、本部、名護の近隣も探したが同じ状況であるという切実な声があった。国も子育て支援には力を入れており、総合戦略においても柱の一つになっている。その中で、今、親御さんたちが必要としているサービスを調査のもとに、事業を立ち上げ、今帰仁村が行っていない延長サービス、休日保育まではいかないが、そのようなサービスに取り組んでいく必要がある。地域のコミュニティの中で悩みや相談事をまとめ、今何が必要か具体的に、まず優先的に対応するとよりよくなるのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今帰仁は PR する知名度が低い。大学生アンバサダーはよい事業だと思う。若い世代を活用し注目を浴びるということも大事、どんどん活用してほしい。先程もあったように、今いる方も元気に、明るい今帰仁村をつくっていけたらとを感じる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間、海洋博から古宇利島までの観光であるが、今帰仁城跡はいいとして、今帰仁城跡から古宇利までの拠点が仲宗根、505 号線の道路のため仲宗根のまちがなくなる。そういう活性化も必要。</li> <li>・ 古宇利島は、地産地消といわれているが、地元産というのは少ない。ほとんど恩納村などからの販売である。だから、そのようなところを拠点とし、もっと地元産の特産品を販売、今帰仁村はスイカなのでスイカを PR するなど、今帰仁村をもっと出していけたらと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今帰仁村の特産物と「今帰仁」という地名に接点がない。今帰仁村にはスイカがあるというのはわかるが、より詳しく、あの方はこれにこだわって作っているなどあれば、ピンポイントでその方と交渉し、また安心してやりませんかと声かけもできるので、その情報収集も必要だと感じる。</li> <li>・ 人口ビジョンについては、人口は横ばいで推移しているが、このまま現状維持でいいのではないかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもを産み育てる、また、ほとんどが共働きなので働くということに関して、私は東京、那覇で生活したことがあるが、都会は不便はないかもしれないが、やはり今帰仁村がよい。空気や風がよい。子育てするにはよい環境ではないかと感じる。</li> <li>・ 雇用する場がなければ、人も増えていかないという話が前回あったが、実は医療や介護の現場では働き手がだんだん少なくなってきている現象が全国的に起きている。少子化の影響が、働く世代に少しずつ影響がきているのではないかと考える。働き手を企業としては奪い合う、どう確保していくかというところに、先に医療と介護の現場にきている。</li> <li>・ 今帰仁村が住んで良い所というのは、現在、住んでいる私たちが一番実感しているので、住む場所がきちんとあり、人口の現状維持がこれからも続けばいいと思う。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今帰仁にはなにがあるかと考えたときに、あまりなくて、土産品の開発と思い今帰仁の素材を使い、パパイヤ、ドラゴンフルーツ、アグーを炒めたが、健康にもよく好評である。ホテルニューオータニの総料理長が、ドラゴンフルーツを試食したときに、とても美味しく、即契約したいという話があった。素材がすごくいいと思うので、この辺は今回の観光協会のアンバサダーも含め情報発信につなげたい。</li> <li>今帰仁村には子どもが生まれる空気がある。子宝の伝説が多くある。それを活かした商品開発、例えば、パパイヤは母乳の出が良くなると言われているが、伝説をもとにパパイヤを活かした商品開発にすると地域の独自性がでてくるのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今帰仁村観光協会を設立する際に、今帰仁村の観光客を増やし、本村の経済を発展させるというような設立趣旨を作成しようと最初は思ったが、初代の会長と話し、やめた。それは、数を追い求めすぎると、大事なものを見失ってしまうのではないか。観光協会はミッションとして、世界中の人に今帰仁のことを好きになってもらい、知ってもらうことという言葉にした。</li> <li>人口ビジョンを考えると、どうしても観光の部分と重なってくるが、観光協会も集客を考えてはいない。選客、お客様を選ぶという時代になってきていると思う。観光客が増えれば、雇用が生まれればそれでいいというのは、今帰仁には特に合わないと思う。だから、人口ビジョンも1万人ではなく、移住してくる人はこういう人、今いるお年寄りも10年後こういうおじいちゃん、おばあちゃんになってほしい、今いる子どもたちはこういう大人に、若者たちがこういうお父さん、お母さんになってほしいというような部分を軽視してしまうと、大事な魂の部分が無くなってしまわないか。</li> <li>先程、おっしゃっていたように、誰が何をどうするというということを具体的に間違ってもいいので、のせていった方がいいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>この策定委員会には、色々な分野の方々に集まって頂いている。私はまだ独身で子育て経験はないが、今帰仁は本当に子育てしやすい所だと私の母親の世代からもよく耳にする。</li> <li>総合戦略では、先程からあるように具体的な施策が重要になるので、しっかり取り組んでいきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は18歳まで北山高校、今帰仁村に住んでおり、それから13年ほど、那覇で過ごし、二人の娘を夫婦共働きで育ててきた。その後、Uターンし今帰仁に戻り、さらに二人の子どもをもうけた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て日本一の村にする。私も娘が一人いるが、今帰仁村へ来て、また一人いたらよかったなと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発に関して、久米島といえば久米島の久米仙、今帰仁といえば、おそらくスイカとアグーしかでてこない。商品の中に今帰仁マンゴーがありすごくいいが、宮崎といえばマンゴーだが、今帰仁となったときに弱いとJAの指導者と話をしたことがある。読谷といえば紅イモであるが、今帰仁にも紅イモはたくさんある。だから商品に今帰仁を付けるだけでもいい。たつみやのまんじゅうが知らないと思うが有名である。ひらがなで今帰仁と書かれている。商品に今帰仁を入れるのは基本目標1の部分。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内で今帰仁村は唯一きのこを生産しているが、今帰仁産きのこカレーを東南アジア向けに生み出す予定。</li> </ul>



委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の案を振り返ると、皆さんのより身近な具体的なテーマであるが、総合戦略は基本計画的な要素になるので、性格としては具体的なものではない。現場の方が集まると色々な具体的な案が出てくるので、総合戦略としての基本方向を一度まとめ、各意見をもう一つ事業計画のようなものを村独自でもいいが、施策体系を作った方がいいのではないかと。</li> <li>・ 戦略は、悪く言うと国からどれだけお金をもらえるかということになる。その戦略は、基本目標 4 の特に連携という言葉がたくさん出てくるが、地域内の連携は皆さんから出てきたように明確に出せると思うが、地域外の連携は、地方創生の考え方からすると矛盾し、最後は奪い合いになってきてしまう。そこをうまく観光の部分と、観光は人を呼ぶ拠点になるので、それが北部地域の拠点の一つに成りうるのであるならば、北部全体にも人が来てくれるという方針を打ち出せば、今帰仁にも周辺にもメリットがある。その拠点が、どういうものか、それが公民館や特産品など人を寄せ集める中心となるのかはわからないが、戦略的にうまく表現してほしいと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの視点からまとめると、一つは今帰仁のブランド化である。北山、500年前はここが中心で、名護や本部ではなく、それこそ何もしなくてもポテンシャルがあるというのはその話であると思う。</li> <li>・ 二つ目は、地域、行政、市民と共同というが、これをどれくらい今帰仁流に進化させるか。それを強みとする。</li> <li>・ もう一つは、具体論であるが、それもかせがなければならぬ。私は、この時代のこのタイミング的には、この庁舎跡をどうするか具体策で考えていきたい。八重瀬では、具志頭庁舎を建て替え、拠点にしている。今帰仁村もここは最高の場所なので、要になると思う。役場もまたそうだが、地域全体の拠点になる。国の案にもある小さな拠点づくり、かせげる拠点をつくるというのが戦略の中にも含まれるのではないかと思う。</li> <li>・ 以上、今回の議論をもとに、また次のステージへ進めていきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回、第 3 回目は、2 月の中旬の開催を予定。</li> </ul>